



『鉄の記念日に思う（12月1日）』

安政4年(1857)、南部藩の釜石市に日本で最初の洋式高炉が造られ、12月1日に初めて火が入れられました。鉄の記念日はこれを記念して1957年に制定されました。従来の砂鉄からの製鉄『たたら製鉄』では生産能力が低く、又、大砲の铸造に適した素材が得られない上に採算性が悪いため洋式高炉が造られたのです。富国強兵を願う明治政府は、国家事業として引き継ぎました。解説書一冊から読みとり製鉄所をつくり鉄を造ることは困難の連続だった事でしょう。当時の技術者の方々に敬意を表します。

鉄道・自動車・船舶・道路・鉄橋、マンション・住宅などなど、身の回りに鉄があふれている現代社会。鉄のことを知り、鉄を大切にしているのでしょうか？昨今の新聞記事を見て、そうでないと思われてなりません。今年5月にエキスポランド（大阪）で走行中のジェットコースターが落下事故を起し死者・重軽傷者がでました。各地で信号機の倒壊が発生し、遊具の事故では子どもが指を切断したりしました。

エキスポランドの事故を報じる毎日新聞では、切断したボルトの断面写真を掲載していました。非常に珍しい有用な写真なので毎日新聞に電話をし、これを入手しようとしたのですが大阪府警からの情報提供ということで断られ入手出来ませんでした。この事故は金属の疲労破壊（ひろうはかい）が主要因でした。危険な部位なのにどうして点検をしていなかったのか？疑問が残ります。又、信号機の倒壊事故（5年間で全国、16の都府県で27件発生：NHK調べ）は道路面と接触する部分の腐食（ふしょく＝さび）が原因です。コンクリートに含まれる成分が腐食を増進することがあるのです。同形式の信号機が2700本もあると聞くと恐ろしくなります。公園や学校の遊具による事故も多発していると聞きますが、何とか防ぎたいものです。

鉄は強く使いやすい素材です。材質の選定や熱処理により、使用状況に適した強さを得ることができます。しかし、一度作ればいつまでも使い続けられる訳ではありません。鉄も人間同様疲れることもあります。特に大きな力が繰り返し掛けられるとエキスポランドの事故のように疲労破壊を起します。『さび』ることにより鉄の断面積が減り、初期の強さを失うこともあります。

（信号機の倒壊）又、『さび』と摩耗により発生する事故（遊具事故）もあります。

事故にはつながらなかったがヒヤッとした。など経験をお持ちの方もいるかと思えます。大勢の皆様は鉄やステンレス鋼のことなどをもっと知って頂きたいと考えています。鉄やステンレス鋼の質問をドンドンお寄せください。出来る限り回答させていただきます。

鉄は生き物、大切に・丁寧にお使いください。
あなたの重要な道具となります。

むらの鍛冶屋®

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/ryou@memenet.or.jp>



何でもお気軽にお尋ねください！！